

(2) 再発防止策 A 予防保全 中長期的な視点での取り組み

資料2-4

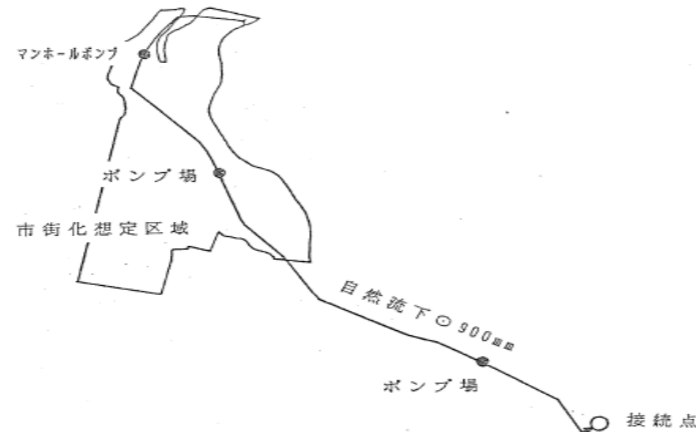
◆北部エリアの整備について

平成2年に北部エリア(速野ポンプ場集水)の下水道整備方針の検討が行われており、4つのケースが検討された(①自然流下1条、②圧送1条、③自然流下2条、④圧送2条)

この検討では、圧送の方が施工性・経済性・投資効果の面で優位であり、リゾート区域や市街化区域・市街化想定区域の発生汚水量、市街化調整区域の農業集落排水事業の調整など不確定要素があるため、汚水量の増に対応しやすいケース4の圧送2条化が良いと結論づけられていた。

また、平成4年の事業認可で北部エリアの一部(中野)と速野ポンプおよび圧送管が事業計画の変更として追加され、事業着手した。ただし、事業認可は2条管で認可を受けているが整備済みは1条管のみである。

ケース1 自然流下1条



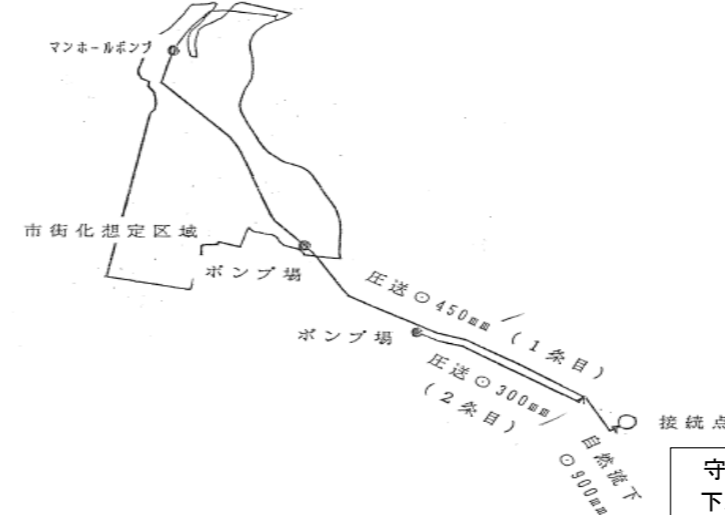
ケース2 圧送1条



ケース3 自然流下2条



ケース4 圧送2条



守山市流域関連公共下水道小島処理分区(北部地区)
下水道整備方針検討 平成3年3月 から抜粋

- 36 -

◆速野ポンプ場等について

【速野ポンプ場の概要】平成8年度工事完了

計画水量: 6,987m³/日 年間維持管理費: 約150,000千円

ポンプ仕様: 1号ポンプφ250 2台 当時の原単位: 450L/人・日

2号ポンプφ300 1台(予備) 現在の原単位: 333L/人・日

ポンプの耐用年数15年 耐震診断結果: 耐震性×

【速野ポンプ場の現在の方針】

ストックマネジメント計画、総合地震計画に基づき、長期的な視点で今後の老朽化・耐震化の進展状況を考慮し、リスク評価等の優先順位付けを行い、設備の改築更新・ポンプ場の耐震化を進める。

【管路の概要】平成6年度工事完了

管種: ダクタイル鋳鉄管 K形 3種管 内面モルタルライニング 耐用年数: 50年(28年経過)

管径: 内径450mm

管厚: 13.5mm(鋳鉄7.5mm ライニング: モルタル厚6mm)

【管路の現在の方針】

速野ポンプ場からの圧送管については、重要な管路であり、管渠の2条化を対策案とし、第9期経営計画(R4~R13)の重点施策と位置付けている。